

障害児教育の向上

障害児教育の教育目標・評価に関する研究

報告：地域学部地域教育学科 三木裕和、山根俊喜

<経過>

2012年度から、鳥取大学を拠点に、「障害児教育の向上・障害児教育の教育目標・評価に関する研究」を継続的に行っている。ここでは、2014年度の研究を報告する。(以下、敬称略。)

●第1回 7/12(土)～13(日)

報告① 赤木和重(神戸大学) 「自閉症における「障害特性に応じた教育」再考」

報告② 岡野さえ子(はぎ総合支援学校) 「自閉症の教育目標、教育評価—性教育の取り組みから考える」

討論

●第2回 11/22(土)～23(日)

報告① 三木裕和 「基調報告—前回研究会のまとめと課題」

報告② 木下孝司(神戸大学) 「障害児の指導を発達論から問い直す—要素主義的行動変容型指導を超えて」

報告③ 福新智幸(山口県・特別支援学校) 「自閉症児の教育実践と教育目標・評価」

報告④ 荒瀬耕輔(京都・特別支援学校) 「民主的な学校づくりと教育実践の課題」

討論

●第3回 12/13(土)～14(日)

報告① 三木裕和 「基調報告—前回研究会のまとめと課題」

報告② 山根俊喜(鳥取大学) 「障害児と教育目標・教育評価—教育方法学からの再検討」

報告③ 大宮とも子(神戸大学附属特別支援学校) 「教育実践から振り返る教育目標・教育評価1」

報告④ 西堂直子(神戸大学附属特別支援学校) 「教育実践から振り返る教育目標・教育評価2」

●全体を通じての参加者

山根俊喜(鳥取大学)、寺川志奈子(鳥取大学)、越野和之(奈良教育大学)、國本真吾(鳥取短期大

学)、赤木和重(神戸大学)、川地亜弥子(神戸大学)、内藤綾子(鳥取短期大学)、原田文孝(兵庫県・特別支援学校)、木澤愛子(滋賀県・特別支援学校)、久保知子(大阪市・特別支援学校)、田中吉美(兵庫県・特別支援学校)、荒瀬耕輔(京都・特別支援学校)、福新智幸(山口県・特別支援学校)、三木裕和(鳥取大学)。この他に、若手の学校教員、鳥取大学三木研究室学生・院生が参加し、討論に加わった。

会場はすべて鳥取大学地域学部である。

●1/10～12、全国障害児学級・学校学習交流集会(和歌山)に参加し、同テーマに基づく教育フォーラムを主宰した。3/21～22、発達保障研究集会(京都)において、障害児教育の目標・評価に関する課題研究に参加予定。

<成果>

特別支援学校教員の実践報告と、大学教員の研究報告を相互交流的に検討することで次のことが明らかになった。

- 1 行動上の問題に不寛容な学校の現状が示され、発達障害の教育目標・教育評価を検討する上で重要な課題であること。
- 2 1と関連しつつ、教育的価値に疑義のある教育目標や指導方法が多く採用されていること。
- 3 上記の問題は、昨今の要素主義的能力観、障害特性論などが影響を与えていること。
- 4 性的問題、強度行動障害など、困難な課題に取り組んでいる実践に注目すべき到達点があり、教育学的研究の必要があること。

<課題>

1. 発達障害のある子どもの、障害による特殊性と、発達主体としての普遍性との関連についての解明
2. 強度行動障害への指導と普遍的な教育目標との関連についての検討
3. 「不寛容な学校」を成り立たせている要因についての検討
4. 卒業後の変容についての検討

本研究の2012～2013年度の研究成果を出版の形で世に問うた。三木裕和、越野和之の編著『障害のある子どもの教育目標・教育評価—重症児を中心に』クリエイツかもがわ、2014年。

次年度は引き続き研究会を行うほか、公開研究会を冬季に開催する。

